

## \*都筑 学さんのプロフィール\*

最近の悩み。音道の上達は目に見えませんが、俳句の上達は目に見えないこと。もう一つ、両者ともに、現在プラトー状態にあること。ボルノウ日く、練習こそが人間的自

由への唯一の道。それを信じて進みたいと思う日々。いつもは「先生」と呼ばれている自分が弟子になる時間はとても貴重。「先生」の垢を落とす修行でもある。

## 学会・研究会紹介

## 「土曜研」(正式名称:公益社団法人日本心理学会 発達心理学基礎研究検討会)

江尻 桂子(茨城キリスト教大学文学部) ejiri@icc.ac.jp

清水 由紀(埼玉大学教育学部) shimizu@mail.saitama-u.ac.jp

土曜研ホームページ <http://doyou.kt.fc2.com/index.html>

## 研究会の発足

土曜研は、2005年に、江尻桂子(茨城キリスト教大学)、清水由紀(埼玉大学)が発起人となって設立した研究会で、今年で9年目を迎えます。発足当時、私(江尻)は就職して7年目、研究者としての自身の状況に少なからず危機感を抱いていました。院生の頃は、研究に十分な時間を割くことができたし、周りにディスカッションできる仲間がたくさんいたのに、就職とともに(女性の場合はこれに産後・育児が加わります)そうした環境が失われ、おのずと研究が滞りがちになっていました。発起人の清水由紀さんも当時、同じような危機感を抱いていたようです。こうした思いのもと、二人で設立することになったのが「土曜研」です。発達心理学の基礎的な研究について、最新の研究成果を共有できる場、そして、所属大学や専門領域を超えて、研究者たちが自由に交流し、情報交換できる場を自分たちの手で作るのだと、やや興奮しながら学会会場の片隅で二人で計画を練ったことを思い出します。

## これまでの研究会活動

2005年5月に第1回目の研究会を開催して以降、2013年までに24回の定例会を開催しました。また、2009年度以降は、日本心理学会の研究集会助成金を受けるようになり、発表者の方に交通費などをお渡しできるようになりました(ただしこの助成金だけでは年に1回の開催がやっとですので、今後の資金調達については頭を悩ませています)。

これまでの土曜研の発表者の総数は42名で、全国各地から、また、海外からも発表者を迎えることができました。発表内容としては、発達心理学を中心に、認知・社会・教育、臨床、生理心理学、統計学など様々な専門領域にわたっています。

以下に、最近3回の発表者のお名前や題目を紹介します(所属は、発表当時のものです)。これまでの発表者や題目については、土曜研ホームページにて、ご覧ください。

第22回 2012年3月3日

・発表者1: 松田佳尚(JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト研究員)

・題目:「マザリーズを処理する親の脳活動:fMRIによる研究」

・発表者2: 松井理直(大阪保健医療大学)

・題目:「近年の聴覚・言語理論の動向と、それに基づく聴覚障害のシミュレーション」

第23回 2013年1月26日

・発表者1: Brian Davis(ニューヨーク市立大学)

・題目: "Culture, narrative, and sexual identity engagement: A comparative study of gay men's individual and social identities in Tokyo and New York City"

・発表者2: 東優子(大阪府立大学)

・題目: "A Hidden Trap in the Health-Based Approach to Transgender Phenomenon in Japan"

第24回 2013年8月17日

・発表者: 増田貴彦(アルバータ大学・京都大学)

・題目:「こころが育む文化。文化が育むこころ: 文化心理学における発達研究」

## 土曜研を支える人たち

研究会がこれまで続いてきたのは、発表者や参加者を含め、多くの方たちの支援があったからです。住吉チカ先生(福島大学)や中島伸子先生(新潟大学)、武居渡先生(金沢大学)には、土曜研の立ち上げや運営にあたって様々なご支援いただきました。また、内

田伸子先生(お茶の水女子大学名誉教授・筑波大学監事)や、今井むつみ先生(慶應義塾大学教授)には毎回、研究会に参加いただくとともに、有意義なコメントをいただいています。さらに、会場設営に関しては、お茶の水女子大学や埼玉大学の学生さんたちにお手伝いいただいています。この場を借りて、土曜研を支えて下さっているすべての方々に御礼申し上げます。

## 土曜研への参加をご希望される方へ

土曜研のメーリングリストに登録していただければ、研究会の情報を随時送りますので、登録ご希望の方は、[doyou-owner@yahoo.co.jp](mailto:doyou-owner@yahoo.co.jp)までメールをお送りください。もちろん登録いただけていなくても、どなたでも自由にご参加いただけます。興味のある会だけの参加でも、全く構いません。院生の方も歓迎します。

## 学会からのお知らせ

## 国際研究交流委員会より

前委員長 福丸 由佳(白梅学園大学子ども学部) [fukumaru@shiraume.ac.jp](mailto:fukumaru@shiraume.ac.jp)

## 1. 2013年度国際ワークショップおよび公開講演のご報告

日本発達心理学会主催の2013年度国際ワークショップは、講師にDr. Jill de Villiers, Dr. Peter de Villiersをお迎えし、「言語と心の理論のインターフェイス」のテーマで、8月23日(金)~25日(日)午前の3日間、東京学芸大学小金井キャンパスで開催されました。受け入れ担当を務めてくださったのは、松井智子先生(東京学芸大学)と藤野博先生(東京学芸大学)です。また、国際ワークショップ後の25日午後には、同キャンパスにて「心の理論と言語」と題して、公開講演会が行われました。(公財)発達科学研究教育センター(CODER)、日本臨床発達心理学会、また会場を提供して下さいました東京学芸大学をはじめ、お力添え賜りました関係各位に改めて御礼申し上げます。

## 《受け入れ担当者より》

藤野博(東京学芸大学)、松井智子(東京学芸大学) シル・デ・ヴィリアーズ(Jill de Villiers)先生は、米国マサチューセッツ州スミス大学心理学科の教授で、言語学、言語獲得、認知科学のコースを担当されています。就学前児の統語発達を主なテーマとし、

迎えます。皆様のご参加を心からお待ちしております。(文責 江尻桂子)

## \*江尻 桂子さんのプロフィール\*

茨城キリスト教大学文学部教授。博士(人文科学)。子どもの言語や認知発達が専門ですが、現在は、障害児家族支援に関する調査研究も行っています(科研費基盤C)。大学のホームページ(<http://www.icc.ac.jp/doe/staffs/ejiri.html>)にも自己紹介を載せてありますので、是非ご覧ください。

## \*清水 由紀さんのプロフィール\*

埼玉大学教育学部准教授。博士(人文科学)。最近、他者の特性理解の発達に関して、日本とアメリカの比較文化研究を行っています。現在ハマっていることは、「アポカドを使ったお酒のおつまみ」を創作すること!

1974年にハーヴァード大学で実験心理学の博士号を取得され、ハーヴァードではロジャー・ブラウン教授の共同研究者でもありました。また、ピーター・デ・ヴィリアーズ(Peter de Villiers)先生も同じくスミス大学心理学科教授で、聴覚障害児の言語と読み書きの発達、自閉症スペクトラム障害児の発達に関するコースなどを担当されています。シル先生と同様に、1974年にハーヴァード大学で実験心理学の博士号を取得されました。

デ・ヴィリアーズご夫妻のご研究は統語の問題を中心に言語発達の幅広い領域にわたるものですが、1990年代以降の業績としてとくに注目されるのは、言語と心の理論の関係についての諸研究です。「信じる」「欲する」など心的動詞の理解に焦点が当てられていたそれまでの心の理論と言語の関係の検討に対し、統語論の視点から、補文をもつ統語構造を処理できる力が誤信念理解に関係するという仮説をもって切り込んだのです。

誤信念課題は「サリーはビー玉がカゴの中に入っていると信じている」と表現できます。これは「Aは<XはYである>ことを信じている」という形式をもちますが、<XはYである>という命題文が「Aは~を信じる」という文の中に埋め込まれ「信じる」